

2024年第13週の報告です。

感染性胃腸炎が定点あたり 4.61 件、**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**が定点あたり 2.13 件と漸増しています。**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は京都市右京区で定点あたり 11.4 件と警報レベルとなっています。また、**咽頭結膜熱**は山城北で定点あたり 1.78 件と警報レベルとなっています。

全数報告対象の感染症は、**結核**が 9 件、**レジオネラ症**が 1 件、**水痘**が 1 件、**梅毒**が 3 件、また、基幹定点の報告として**無菌性髄膜炎**が 1 件、**マイコプラズマ肺炎**が 1 件報告されました。

今週も含めて毎週のように梅毒の報告が続いています。梅毒トレポネーマという病原菌により全身に様々な症状が出る性感染症で、早期発見、早期治療が重要であるといえます。検査が遅れたり、治療せずに放置すると、脳や心臓にも重大な合併症を呈することがあります。また妊娠中の感染は、死産、早産、新生児死亡の原因になったり、生まれた子供にも重篤な障害が出たりすることがあります。梅毒は早期には軽い皮膚症状のみで消長することもあるので、検査により感染の有無を確認することが必要です。